

新型コロナワクチン予防接種についての説明書

ファイザー社製

新型コロナウイルスワクチン接種について

本ワクチンの接種は国と地方自治体による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）ワクチン接種事業の一環として行われます。本ワクチンの接種は公費対象となり、希望者は無料で接種可能です。なお、本ワクチンは16歳以上の方が対象です。

ワクチンの効果と投与方法

今回接種するワクチンはファイザー社製のワクチンです。新型コロナウイルス感染症の発症を予防します。

ワクチンを受けた人が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症した人が少ないということが分かっています。（発症予防効果は約95%と報告されています。）

販売名	コミナティ [®] 筋注
効能・効果	SARS-CoV-2による感染症の予防
接種回数・間隔	2回（通常、3週間の間隔） ※筋肉内に接種
接種対象	16歳以上（16歳未満の人に対する有効性・安全性はまだ明らかになっていません。）
接種量	1回0.3 mLを合計2回

- 1回目の接種後、通常、3週間の間隔で2回目の接種を受けてください。（接種後3週間を超えた場合は、できるだけ速やかに2回目の接種を受けてください。）
- 1回目に本ワクチンを接種した場合は、2回目も必ず同じワクチン接種を受けてください。
- 本ワクチンの接種で十分な免疫ができるのは、2回目の接種を受けてから7日程度経って以降とされています。現時点では感染予防効果は明らかになっていません。ワクチン接種にかかわらず、適切な感染防止策を行う必要があります。

予防接種を受けることができない人

下記にあてはまる方は本ワクチンを接種できません。該当すると思われる場合、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

- 明らかに発熱している人（※1）
- 重い急性疾患にかかっている人
- 本ワクチンの成分に対し重度の過敏症（※2）の既往歴のある人
- 上記以外で、予防接種を受けることが不適当な状態にある人

（※1）明らかな発熱とは通常 37.5℃以上を指します。ただし、37.5℃を下回る場合も平時の体温を鑑みて発熱と判断される場合はこの限りではありません。

（※2）アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

予防接種を受けるに当たり注意が必要な人

下記にあてはまる方は本ワクチンの接種について、注意が必要です。該当すると思われる場合は、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

- 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある人
- 過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある人
- 過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた人
- 過去にけいれんを起こしたことがある人
- 本ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある人

（うらへ続く）

妊娠中、又は妊娠している可能性がある人、授乳されている人は、接種前の診察時に必ず医師へ伝えてください。

本剤には、これまでのワクチンでは使用されたことのない添加剤が含まれています。過去に、薬剤で過敏症やアレルギーを起こしたことがある人は、接種前の診察時に必ず医師へ伝えてください。

接種を受けた後の注意点

- 本ワクチンの接種を受けた後、15 分以上（過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を起こしたことがある方や、気分が悪くなったり、失神等を起こしたりしたことがある方は 30 分以上）、接種を受けた施設でお待ちいただき、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。（急に起こる副反応に対応できます。）
- 注射した部分は清潔に保つようにし、接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部分はこすらないようにしてください。
- 当日の激しい運動は控えてください。

副反応について

主な副反応は、注射した部分の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等があります。また、まれに起こる重大な副反応として、ショックやアナフィラキシーがあります。なお、本ワクチンは、新しい種類のワクチンのため、これまでに明らかになっていない症状が出る可能性があります。接種後に気になる症状を認めた場合は、接種医あるいはかかりつけ医に相談しましょう。

予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことができないことから、救済制度が設けられています。

新型コロナワクチンの予防接種によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

新型コロナウイルス感染症について

SARS-CoV-2 による感染症が発症すると、熱や咳など風邪によく似た症状がみられます。軽症のまま治癒する人も多い一方、重症化すると、呼吸困難などの肺炎の症状が悪化し、死に至る場合もあります。

今回接種する新型コロナウイルスワクチン（ファイザー社製のワクチン）の特徴

本剤はメッセンジャーRNA（mRNA）ワクチンであり、SARS-CoV-2 のスパイクタンパク質（ウイルスがヒトの細胞へ侵入するために必要なタンパク質）の設計図となる mRNA を脂質の膜に包んだ製剤です。本剤接種により mRNA がヒトの細胞内に取り込まれると、この mRNA を基に細胞内でウイルスのスパイクタンパク質が産生され、スパイクタンパク質に対する中和抗体産生及び細胞性免疫応答が誘導されることで、SARS-CoV-2 による感染症の予防ができると考えられています。

本剤には、下記の成分が含まれています。

有効成分	◇ トジナメラン（ヒトの細胞膜に結合する働きを持つスパイクタンパク質の全長体をコードする mRNA）
添加物	◇ A L C - 0 3 1 5 : [(4 - ヒドロキシブチル) アザンジール] ビス (ヘキサン - 6 , 1 - ジイル) ビス (2 - ヘキシルデカン酸エステル)
	◇ A L C - 0 1 5 9 : 2 - [(ポリエチレングリコール) - 2000] - N , N - ジテトラデシルアセトアミド
	◇ D S P C : 1 , 2 - ジステアロイル - sn - グリセロ - 3 - ホスホコリン
	◇ コレステロール
	◇ 塩化カリウム
	◇ リン酸二水素カリウム
	◇ 塩化ナトリウム
	◇ リン酸水素ナトリウム二水和物
	◇ 精製白糖

新型コロナワクチンの詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索



ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

新型コロナウイルスワクチン接種のお知らせ

接種費用
無料

対象者	75歳以上の方（昭和22年4月1日以前に生まれた方）
接種回数	2回接種（同じ種類のワクチンを約3週間あけて2回接種） ※ファイザー社製のワクチンとなります。ワクチンの種類は選べません。
接種までの流れ	1回目予約→1回目接種→2回目予約→2回目接種 ※予約電話番号については、裏面の一覧をご覧ください。
接種場所	裏面の接種医療機関一覧をご確認ください。 ※1回目と2回目の接種は同じ医療機関になります。
接種開始時期	4月下旬から開始予定（ワクチンの供給状況により、遅れる場合があります。）
持ち物	※ 接種前に以下の持ち物をチェックしてください。 <input type="checkbox"/> 同封の予診票（1枚、記入してお持ちください。2回分同封しています。） <input type="checkbox"/> 同封のクーポン券 <input type="checkbox"/> 本人確認書類（運転免許証、健康保険証、マイナンバーカード等のいずれか1つ） <input type="checkbox"/> お薬手帳（予診時の服薬確認のため）
接種当日の注意事項	・接種前にご自宅で体温を測定し、明らかな発熱がある場合や体調が悪い場合などは、接種を控え、予約した医療機関にご連絡ください。 ・筋肉注射は、腕の中でも肩に近い部位に接種します。 肩を出しやすい服装 （できれば肌着は半そで）でお越しください。
当日の流れ	予約した日時に医療機関に行く→受付（クーポン券、予診票等の提出）→本人確認→体温測定・予診→ワクチン接種→経過観察（15～30分）→帰宅



▶▶えびの市コロナワクチンコールセンター

接種券や接種場所、接種方法などに関する相談窓口

電話：050-5445-5060

午前9時～午後5時（土・日、祝日を含む）

▶▶その他お問い合わせ先

○ワクチンの安全性・有効性や副反応など、医学的知見が必要となる相談窓口

宮崎県新型コロナワクチン副反応等コールセンター

電話：0985-26-4609 午前9時～午後6時（土・日、祝日を含む）

FAX：0985-26-1000

○新型コロナウイルス感染症に関する厚生労働省の電話相談窓口

電話：0120-565653（フリーダイヤル）※土・日、祝日を含む

【日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語】午前9時～午後9時

【タイ語】午前9時～午後6時

【ベトナム語】午前10時～午後7時

※裏面もご覧ください。

▶▶ 接種医療機関 ※事前予約が必要です。→予約開始日：4月19日（月）

★印の医療機関は「かかりつけ患者」のみ予約できます。

	医療機関名	電話番号	医療機関名	電話番号
えびの市	いしざわ循環器内科	予約受付 コールセンター 050-5445-5060 【受付時間】 午前9時～午後5時 (土・日、祝日含む) QRコード 	★京町温泉クリニック	37-2233
	えびの眼科こだま小児科医院		★杉原耳鼻咽喉科	21-3100
	えびの第一クリニック		★丹医院	33-0107
	えびの市立病院		★若葉クリニック	33-3838
	★えびの整形外科医院		★渡辺医院	37-1109
	★えびのセントロクリニック			
	京町共立病院			
	前田医院			
小 林 市 ・ 高 原 町	池井病院	23-4151	池田病院	23-3535
	★上田内科	23-3377	★内村病院	23-2575
	沖内科・小児科医院	22-4043	押川病院	44-1005
	桑原記念病院	22-4138	★小林市立病院	23-4711
	★小林泌尿器科クリニック	25-0505	★整形外科前原病院	23-1711
	すわクリニック	22-6489	★園田病院	22-2221
	和田クリニック	23-5653	西小林診療所	27-1034
	★たなか循環器内科クリニック	23-1115	花田耳鼻咽喉科	24-5100
	野尻中央病院	44-1141	堀胃腸科外科医院	23-3988
	ひろた内科クリニック	25-0550	楨内視鏡内科医院	22-2819
	前田内科医院	22-5802	★よしむら循環器内科クリニック	27-3339
	★宮崎医院	22-2841	★川井田医院	42-2000
	★小林市立須木診療所	48-2025	★ふきやま霧島東麓クリニック	25-6010
	★整形外科フレンドクリニック	22-3132	★国民健康保険高原病院	42-1022

●この予防接種は任意であり、**強制ではありません**。接種する方は、接種の効果と副反応の双方を理解した上で自らの意志で接種してください。現在、病気で治療中の方や体調に不安のある方は、かかりつけの医師に相談し、接種するかどうか決めてください。

●職場や周りの人に接種を強制したり、接種を受けていない方に**差別的な扱いをすることのないよう**お願いします。

●ワクチン接種のために必要だとかたり、**金銭や個人情報をだまし取ろうとする電話やメールにご注意ください**。市がワクチン接種のために金銭や個人情報を電話やメールで求めることはありません。

新型コロナワクチン接種に関する Q&A

新型コロナワクチン
接種はいつから
始まるの？

新型コロナワクチン
接種はどこで
受けるの？

新型コロナワクチン
接種で気を付ける
ことは？

新型コロナワクチン
は安全なの？

相談先はこちらです。

接種券や接種場所、接種方法など
に関する相談窓口

ワクチンの安全性、副反応に
ついての相談

えびの市コロナワクチン
コールセンター

050-5445-5060

午前9時～午後5時（土・日、祝日を含む）

4月中旬頃に設置予定

宮崎県新型コロナワクチン副反応等接種
コールセンター

電話：0985-26-4609（知ろうワクチン）

FAX：0985-26-1000

受付時間：午前9時～午後6時
（土日、祝日含む）

厚生労働省の Q&A をもとに作成しています。ワクチン接種時期等は、ワクチンの供給状況等により変更しますので、市ホームページで随時お知らせします。

令和3年4月1日

えびの市新型コロナウイルスワクチン接種推進室

担当課：えびの市健康保険課（35-1116）

Q1 いつから受けられますか。

新型コロナワクチンは、当面、確保できるワクチンの量に限りがあることから、順次接種していくこととなります。国が都道府県ごとの配分を決めて配送し、都道府県が市町村の配分を決めます。えびの市の高齢者への接種の開始は、4月下旬以降になる見込みです。決まり次第ホームページでお知らせします。対象者には、接種券を郵送します。

Q2 接種費用は自己負担がありますか。

全額公費で接種を行うため、無料で接種できます。

※新型コロナワクチンに便乗した詐欺にご注意ください。ワクチン接種のために、市から金銭や個人情報などを電話・メールで求めることはありません。

Q3 どこで接種ができますか。

身近な医療機関で接種できるように、西諸3市町や西諸医師会と協議を行っております。医療機関だけでは接種できないようであれば、保健センター等での集団接種を検討したいと考えています。接種場所、接種方法の詳細は、接種時期の前に発送する接種券に同封します。

Q4 接種券はいつ届きますか。

ワクチンの供給日が決まりましたら、国が決めた接種順位に沿って接種券を発送します。発送予定の接種券と同封して、ワクチン接種までの流れや予約の方法等についてお知らせします。ワクチンの供給量・時期等によっては、年齢により接種時期を細分化する可能性もありますので、接種券が発送されるのをお待ちください。

Q5 何回受けるのですか。

2回の接種が必要です。

ファイザー社のワクチンでは、通常、1回目の接種から3週間後に2回目の接種を受けます。1回目の接種から3週間を超えた場合には、できるだけ早く2回目の接種を受けてください。

Q6 優先順位がありますか。

優先順位は以下の通りです。

- ① 医療従事者（接種が始まっています）
- ② 高齢者（令和3年度中に65歳に達する、昭和32年4月1日以前に生まれた方）

※4月末より開始予定ですが、ワクチン供給量が少ないため接種年齢を細分化する可能性があります。

- ③ 高齢者以外で基礎疾患を有する方や高齢者施設等で従事されている方
- ④ それ以外の方

Q7 基礎疾患のある方はどのように判断するのですか。

基礎疾患のある方は予診票に記載していただき、予診する医師が判断します。

(1)以下の病気や状態の方で、通院・入院している方

- ① 慢性の呼吸器の病気
- ② 慢性の心臓病（高血圧を含む）
- ③ 慢性の腎臓病
- ④ 慢性の肝臓病（肝硬変等）
- ⑤ インスリンや飲み薬で治療中の糖尿病または他の病気を併発している糖尿病
- ⑥ 血液の病気（ただし、鉄欠乏性貧血を除く）
- ⑦ 免疫の機能が低下する病気（治療中の悪性腫瘍を含む）
- ⑧ ステロイドなど免疫の機能を低下させる治療を受けている
- ⑨ 免疫の異常に伴う神経疾患や神経筋疾患
- ⑩ 神経疾患や神経筋疾患が原因で身体の機能が衰えた状態（呼吸障害など）
- ⑪ 染色体異常
- ⑫ 重症心身障害（重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態）
- ⑬ 睡眠時無呼吸症候群
- ⑭ 重い精神疾患(性心疾患の治療のため入院している、精神障害者保健福祉手帳を所持している、又は自立支援医療(精神通院医療)で「重度かつ継続」に該当する場合)や知的障害(療育手帳を所持している場合)

(2)基準（BMI30 以上）を満たす肥満の人 : $BMI = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$

Q8 接種当日は何を持って行けばいいですか。

事前に送られた「予診票」と「クーポン券」「本人確認書類(運転免許証、マイナンバーカード、パスポート、保険証等)」「お薬手帳(お持ちの方)が必要です。忘れずにお持ちください。

Q9 接種当日の注意事項について何かありますか。

接種後少なくとも 15 分間は、接種を受けていただいた会場でお待ちいただき、状態を観察します。また、過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー反応を起こしたことがある方や、気分が悪くなったり、湿疹等を起こしたことがある方は 30 分程度、状態の観察をします。

接種当日の激しい運動は控えてください。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすらないようにしてください。

Q10 新型コロナワクチンの接種は希望しません。しなくてもよいですか。

ワクチンを受けるには、本人の同意が必要であり、強制されるものではありません。接種による感染症予防の効果と副反応のリスクの両方について理解した上で、自らの意思で接種を受けていただきます。職場や周囲の方などに接種を強制したり、強引に勧めたりすることがないようにしてください。

Q11 えびの市に住所があっても、市外に住んでいます。接種できますか。

原則、住民票がある自治体での接種になっています。ただし、入院・施設入所者で主治医の指示のもと接種する場合等については例外的に住所地以外での接種が可能です。また、単身赴任者、出産のために里帰りしている妊産婦、学生等についても住所地以外での接種が可能ですが、この場合は住民票のあるえびの市への申請、住所地外接種届出済証が必要になります。

Q12 予約は必要ですか。

新型コロナワクチンは1つの瓶(バイアル)で5～6人分の接種が可能です。ワクチンを無駄にしないように完全予約制となります。

Q13 接種したその日に仕事や学校に行けますか。

差し支えありません。ただし、接種後30分間の健康観察で激しい副作用がみられたり、その後の体調がすぐれない際には、早急に医療機関での治療が必要になる場合もあります。

Q14 新型コロナウイルスに感染したことがある人は、受けることはできますか。

既に新型コロナウイルスに感染した人も、新型コロナワクチンを受けることができます。ただし、受けた治療の内容によっては、治療後から接種まで一定の期間をおく必要がある場合がありますので、いつから接種できるか不明な場合は、主治医にご確認ください。

Q15 持病があり、薬を飲んでいる人はワクチンを接種することはできますか。

薬を飲んでいるために、ワクチン接種ができないということはありませんが、基礎疾患のある方では、免疫不全のある方や病状が重い方など、接種を慎重に検討した方がよい場合がありますので、かかりつけ医とご相談ください。ただし、抗凝固薬(いわゆる「血をサラサラにする薬」の一部です)を飲んでいる方は、ワクチンを受けた後、2分以上しっかり押さえてください。ご自身が飲んでいる薬が抗凝固薬に当てはまるかどうか不明な方は、かかりつけ医などにご確認ください。

Q16 「基礎疾患を有する者」に当てはまることを証明するために、診断書は必要ですか。

本人が予診票に基礎疾患を有することを記入することで自己申告し、予診で医師が確認するため、診断書等は必要ありません。必要がある時は、問診で病気や治療の状況を確認しますので、お薬手帳をお持ちの方は、接種する医療機関へご持参ください。

Q17 認知症などで本人に接種意思を確認が難しい場合はどうするのですか。

接種には、ご本人の接種意思の確認が必要です。意思を確認しにくい場合は、ご家族等に協力いただき、ご本人の意思確認をお願いします。なお、ご本人が接種を希望されているものの、何らかの理由でご本人による自署が困難な場合は、ご家族の方等に代筆していただくことは可能です。

Q18 新型コロナワクチンとそれ以外のワクチンは、同時接種ができますか。

原則として、新型コロナワクチンとそれ以外のワクチンは、同時に接種できません。新型コロナワクチンとその他のワクチンは、互いに、片方のワクチンを受けてから2週間後に接種できます。新型コロナワクチンは、決められた間隔で2回接種しなければなりませんので、他のワクチンを接種される場合は、かかりつけ医などに必ずご確認ください。

Q19 ワクチンの種類は選べますか。

接種を受ける時期に国から供給されているワクチンを接種することになります。複数のワクチンが供給されている場合は、1回目受けたワクチンと同じものを2回目も接種する必要があります。なお、1回目のワクチンを受けてから2回目のワクチンを受ける間隔は、ワクチンによって決まっています。

Q20 どの会社のワクチンが一番効果がありますか。

ワクチンの薬事承認に当たっては、有効性や安全性を慎重に審査します。現時点では1社のワクチンが薬事承認され、有効性や安全性が確認されています。今後、承認を得たワクチンは、いずれも一定以上の効果があると考えられます。

ワクチンの有効性などについての情報は、今後も随時お知らせしていきます。

Q21 ワクチンを接種した後も、マスク着用は必要ですか。

ワクチン接種により、発症や重症化の予防は期待されていますが、感染予防の効果はまだ分かっ

ていません。このため、引き続き、マスクの着用やこまめな手洗い等の感染予防対策を継続してください。

Q22 ワクチンの安全性については大丈夫ですか。

国内での接種開始後、国が先行接種者健康状況調査や副反応の疑い報告と審議会での評価などを行います。これらの調査結果などの安全性について情報収集し、市民の皆様に提供します。

Q23 新型コロナワクチンにはどのような効果（発症予防、持続期間）がありますか。

現在、国内外で新型コロナワクチンの開発が進められ、新型コロナワクチンの効果や安全性等については確認されているところです。ワクチンを接種することで発症を防ぐことができたり、万が一感染してしまっても重症化を予防できることが分かっています。

臨床試験や接種が始まってから時間があまり経過していないことから、効果の持続期間については明らかになっていません。今後の情報が明らかになるのを待つ必要があります。

Q24 日本で使われる予定の新型コロナワクチンは足りるのですか。

日本では、ファイザー社、モデルナ社、アストラゼネカ社の製薬企業3社から合計で2億9,000万回分の供給を受けることについて合意をしています。1人に2回接種した場合1億4,500万人分となります。また、ワクチンが国内で承認され、供給できる準備が整った際に、出来るだけ早くワクチンを提供できるよう準備を進めています。

Q25 これまでに認められている副反応にはどのようなものがありますか。

ファイザー社等の日本への供給が計画されている海外のワクチンでは、接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。また、海外で、まれな頻度でアナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生したことが報告されています。もし、アナフィラキシーが起きたときには、接種会場や医療機関ですぐに応急治療を行えるよう応急処置用品の準備や体制を確保します。

Q26 副反応が起きた場合の補償はどうなっていますか。

一般的に、ワクチン接種では、一時的な発熱や接種部位の腫れ・痛みなどの、比較的良好に起こる副反応以外にも、副反応による健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が、起こることがあります。極めて稀ではあるもののなくすることができないことから、予防接種法に基づく救済制度が設けられています。新型コロナワクチンの接種についても、健康被害が生じた場合には、予

防接種法に基づく救済を受けることができます。

Q27 ワクチンを受けた後に熱が出たら、どうすれば良いですか。

ワクチンによる発熱は接種後1～2日以内に起こることが多く、必要な場合は解熱鎮痛剤を服用などして、様子を見ていただくことになります。このほか、ワクチン接種後に比較的起きやすい症状としては、頭痛、疲労、筋肉痛、悪寒（さむけ）、関節痛などがあります。

ワクチンによる発熱か、新型コロナウイルス感染症かを見分けるには、発熱以外に、咳や咽頭痛、味覚・嗅覚の消失、息切れ等の症状がないかどうか、手がかりとなります。（ワクチンによる発熱では、通常、これらの症状はみられません。）ワクチンを受けた後、2日以上熱が続く場合や、症状が重い場合、ワクチンでは起こりにくい上記の症状がみられる場合には、医療機関等への受診や相談をご検討ください。

Q28 子どもは接種を受けることができますか。

現在薬事承認されている、ファイザー社の新型コロナワクチンについては、16歳以上が対象となっています。このため、16歳に満たない方は、ワクチンの接種の対象にはなりません。16歳の誕生日の前日から、本予防接種の対象となります。

Q29 妊娠中や授乳中の人は、ワクチンを受けることができますか。

妊娠中、授乳中の方も、新型コロナワクチンを受けることができます。ただし、妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、海外の実使用経験などから現時点で特段の懸念が認められているわけではありませんが、安全性に関するデータが限られていることから、接種のメリットとデメリットをよく検討して接種を判断していただくこととしています。また、授乳中の女性については、現時点で特段の懸念が認められているわけではなく、海外でも接種の対象とされています。ワクチンを受けるかお悩みの方は、主治医にご相談ください。

Q30 ワクチンを受けられないのはどのような人ですか。

一般に、以下の方は、ワクチンを受けることができません。ご自身が当てはまると思われる方は、ワクチンを受けても良いか、かかりつけ医にご相談ください。

- ・明らかに発熱している方（※1）
- ・重い急性疾患にかかっている方
- ・ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症（※2）の既往歴のある方
- ・上記以外で、予防接種を受けることが不適当な状態にある方

（※1）明らかな発熱とは通常 37.5℃以上を指します。ただし、37.5℃を下回る場合も平時の体温を鑑みて発熱と判断される場合はこの限りではありません。

（※2）アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、ア

ナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

Q31 ワクチンを受けるのに注意が必要なのはどのような人ですか。

一般に、以下の方は、ワクチンを受けるに当たって注意が必要です。ご自身が当てはまると思われる方は、ワクチンを受けても良いか、かかりつけ医にご相談ください。

- ・過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ・心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある方
- ・過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
- ・過去にけいれんを起こしたことがある方
- ・ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方

また、新型コロナワクチンは筋肉内に注射することから、抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある方は、接種後の出血に注意が必要とされています。

Q32 集団免疫とは何ですか。

感染症は、病原体が、免疫を持たない人に感染することで流行します。ある病原体に対して、人口の一定割合以上の方が免疫を持つことで、感染の連鎖を止めることができます。この状態を集団免疫といい、社会全体が感染症から守られることにつながります。

感染症の種類やワクチンによっては、接種することで重症化を防ぐ効果はあっても感染自体を防ぐ効果が乏しく、たくさんの人に接種しても十分な集団免疫を得ることができない場合もあります。今回の新型コロナワクチンによって、集団免疫の効果があるかどうかは現時点で分かっておらず、効果の判定には時間がかかります。

Q33 変異株の新型コロナウイルスにも効果はありますか。

ウイルスは絶えず変異しており、小さな変異でワクチンの効果がなくなるわけではありません。また、ワクチンによっては、変異株の新型コロナウイルスにも作用する抗体がつくられた、といった実験結果も発表されています。

日本での承認申請がなされた新型コロナワクチンは変異株に関する情報も含め、引き続き様々な情報を収集しつつ、適切に有効性、安全性等を確認していきます。

Q34 ワクチンの安全性の確保のため、どのような取組をしていますか。

臨床試験では、有効性・安全性等に関するデータを収集するため、健康な方や患者さんに協力してもらい、開発中のワクチンを実際にヒトに投与して試験します。その後、臨床試験の結果などに基づいて、ワクチンの有効性・安全性、品質についての審査が行われ、ワクチンが承認されます。

また、国内のワクチンの接種の開始後は、副反応を疑う事例を収集し、専門家による評価を行っ

ています。こうした結果を公表するなどして、安全性に関する情報提供などを行っていきます。

※ワクチン接種は、発症予防・重症化予防が想定されており、感染予防の効果を期待するものではありません。日頃の手洗い・うがいと十分な休養・食事、マスクを着用する「咳エチケット」を一緒に行い、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めましょう。